

みずほマーケット・トピック(2020年1月17日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向 2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・ 今週のドル/円相場はドル高の展開。週初 13 日に 109 円台半ばでオープンしたドル/円は、イラン情勢に衣服感が見られる中、15 日の米中フェーズ 1 の署名に向け、リスクオンの円売り・ドル買いが進み、110 円付近まで上昇した。14 日は、米国為替報告書にて中国が為替操作国認定解除されたことを受け、さらにリスクセンチメントが改善し、2019 年 5 月以来の 110 円を突破した。その後は米 12 月 CPI が予想を下回る伸びであったことや、第 1 段階合意の遵守次第で対中関税は大統領選後まで維持されるとの報道から上値は重く、110 円付近での推移が続いた。15 日は、ムニューシン米財務長官が米中フェーズ 1 合意段階での対中関税の解除を否定したことで一時下落したものの、仲値にかけて徐々に回復し、その後も米中合意署名への期待感と NY ダウ平均が史上最高値をつける中、ドル/円は 110 円付近を堅調に推移した。16 日は前日の米中フェーズ 1 合意の流れを受け、米国の堅調な指標や株式と米金利上昇を背景にじり高の推移は続き 110 円台を回復した。本日は週高値を更新し 110 円台前半での推移が続いている。
- ・ 今週のユーロ/ドル相場は週後半に高値をつける展開。週初 13 日に 1.11 台前半でオープンしたユーロ/ドルは、イラン情勢一服を受けたドル買いに小幅に下落する展開。その後は独債金利上昇に伴いユーロ買いが優勢となり一時 1.11 台半ばまで上昇した。14 日は米 12 月 CPI の発表を前に下落し、その後もユーロ/円に連れ安となり 1.11 付近まで値を下げた。しかし、米国 CPI の軟調な結果を受け、次第にドル売りが優勢となり、対中関税継続に関する報道もあいまって、1.11 台前半まで値を戻した。15 日は米 12 月卸売物価指数が軟調な結果となったことを受け 1.11 台半ば上昇したが、その後は米中合意への期待感からドル買いが進み、徐々に値を下げた。16 日は 12 月 ECB 政策理事会議事要旨での当面の政策据え置き姿勢が示唆される内容を受けて一時週高値の 1.1172 まで上昇するも、その後は米国の堅調な指標や株式を背景にドルが買われ、1.11 台前半まで下落した。本日も 1.11 台前半での推移が続いている。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		1/10(Fri)	1/13(Mon)	1/14(Tue)	1/15(Wed)	1/16(Thu)
ドル/円	東京9:00	109.50	109.55	110.01	109.86	109.88
	High	109.69	109.95	110.22	110.01	110.18
	Low	109.43	109.50	109.85	109.79	109.86
	NY 17:00	109.50	109.94	110.00	109.91	110.18
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1110	1.1117	1.1135	1.1128	1.1152
	High	1.1129	1.1147	1.1144	1.1164	1.1172
	Low	1.1086	1.1112	1.1104	1.1119	1.1127
	NY 17:00	1.1121	1.1133	1.1126	1.1150	1.1137
ユーロ/円	東京9:00	121.65	121.79	122.50	122.28	122.54
	High	121.83	122.48	122.76	122.71	122.88
	Low	121.54	121.78	122.20	122.20	122.53
	NY 17:00	121.78	122.43	122.37	122.53	122.68
日経平均株価	23,850.57	-	24,025.17	23,916.58	23,933.13	
TOPIX	1,735.16	-	1,740.53	1,731.06	1,728.72	
NYダウ工業株30種平均	28,823.77	28,907.05	28,939.67	29,030.22	29,297.64	
NASDAQ	9,178.86	9,273.93	9,251.33	9,258.70	9,357.13	
日本10年債	0.00%	-	0.01%	0.00%	0.01%	
米国10年債	1.82%	1.85%	1.81%	1.79%	1.81%	
原油価格(WTI)	59.04	58.08	58.23	57.81	58.52	
金(NY)	1,560.10	1,550.60	1,544.60	1,554.00	1,550.50	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・ 欧州では、23日(木)に年内最初のECB政策理事会が開催される。昨年12月会合はラガルドECB総裁にとって初めての会合となり、その後の会見は同氏の政策姿勢や前ドラギ総裁との人となりの違いにも注目が集まった。そこでは政策金利の据え置き発表のほか、今年1月から年内までに物価目標をはじめとした金融政策の総点検を実施する考えが示された。それゆえ今回会合後に、ラガルド総裁が本件に関する議論の有無とその内容に関してどのような発言を残すか大きな注目が集まる。そのほか、直近数か月で域内のPMI景況感指数やZEW景気期待指数などの経済指標に改善が見られており、僅かながらユーロ圏経済の先行きに底打ちの兆しが出てきている。ラガルド総裁も前回会合後、現状を減速に歯止めがかかる最初の兆候が見えていると言及し、悲観的でない姿勢を示した。加えて、年末年初にかけて米中協議のフェーズ1署名にかかる交渉進展や米国イラン間での緊張が早期に一服したことなど、リスクセンチメントが改善傾向にあることも踏まえれば、追加緩和はなく現状の姿勢を維持する方向感となる見込みが強そうだ。
- ・ 本邦では、20(月)～21日(火)に年内最初の金融政策決定会合が予定されている。昨年12月会合後、黒田総裁は米中対立の緩和や英国選挙動向などを受けて海外のリスク要因が若干和らいだとしながらも、依然として警戒が必要とし、引き続き緩和方向を意識した政策運営が適当と発言した。また、国内景気の現状について、基調としては緩やかに拡大しているとし、これまでの認識を維持した。
今回については、米中間でのフェーズ1署名やイラン情勢が一服し、海外リスク要因がさらに和らぐ中、政府が昨年12月に発表した大型の経済対策効果を見極めるため、引き続き現行の金融政策が維持され、追加緩和の可能性は低いと予想される。その背景には、昨年末以降、世界的な金融緩和のトレンドが一段落した点も大きい。米国では、FRBが前回のFOMC会合後に当面の金融政策を維持することを強調したほか、今週も複数の連銀総裁が会見にて現行の金利水準について適切ないし理想的と言及し、むしろ状況としては昨年の予防的利下げからタカ派への移行タイミングを模索する段階に入っている。また、欧州でも昨年12月のスウェーデン中銀のリスバンクがマイナス金利を解除した動きに象徴されるように、マイナス金利の副作用が指摘され、金利の深掘りに異を唱える動きが次第に強くなっている。かかる中、日銀が今回、外部環境が好転しつつある状況で米国・欧州の動きに逆行し、追加緩和をするには論拠に乏しい印象が強い。

	本 邦	海 外
17日(金)	・11月第3次産業活動指数	・米12月設備稼働率/鉱工業生産 ・ユーロ圏12月CPI(確報)
20日(月)	—————	・米祝日
21日(火)	・日銀金融政策会合	・ユーロ圏12月ZEW景気期待指数
22日(水)	・12月東京販売用マンション発売戸数	・米12月中古住宅販売件数
23日(木)	・12月貿易収支	・ECB政策理事会
24日(金)	・12月日銀議事要旨 ・1月PMI製造業/PMIサービス業(速報)	・米1月製造業PMI(速報) / サービス業PMI(速報) ・ユーロ圏1月製造業PMI / サービス業PMI(速報)

【当面の主要行事日程(2020年1月～)】

ECB政策理事会(1月23日、3月12日)
日銀金融政策決定会合(1月20～21日、3月18～19日)
米FOMC(1月28～29日、3月17～18日)

市場営業部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌 大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2020年1月15日	「1998～99年、との違いはどこにあるのか～その～
2020年1月14日	中国の為替操作国認定解除を受けて～ドル売り介入の催促～
2020年1月10日	週末版(「調達通貨は円よりユーロ、の答え合わせ～中東リスクを前に～)
2020年1月9日	予防的利下げの成否～'98年型利下げ」と'99年型利上げ～
2020年1月8日	軍事衝突と原油高への考え方～円高は不幸中の幸いか?～
2020年1月6日	2020年、レンジ脱却に必要なもの
2019年12月25日	2020年、レンジ脱却に必要なもの
2019年12月24日	2020年の想定外はどこにあるのか?～6つの論点～
2019年12月23日	スウェーデン、マイナス金利解除の読み方～2020年への示唆～
2019年12月20日	週末版
2019年12月19日	米大統領選挙の左派リスクは2020年の波乱要因か? 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年11月分)
2019年12月18日	やはり上げを失ったボンド相場～政治も金融もボンドの足枷～
2019年12月17日	日銀金融政策決定会合プレビュー
2019年12月16日	英総選挙を終えて～「次の山」は2020年6月末に～
2019年12月13日	週末版(ECB政策理事会を終えて～フクロウ型総裁の「人となり」～)
2019年12月12日	FOMCを終えて～「タカ派の利下げ」から「ハト派の現状維持」～
2019年12月11日	円の基礎的需給環境～基礎収支に映る変化～
2019年12月10日	道標を失った為替市場～マイナス金利解除がキーに?～
2019年12月9日	英国総選挙の論点整理～事実上、「2度目の国民投票」～
2019年12月6日	週末版(2019年の為替市場を概観する～円は結局強かった～)
2019年12月5日	ECB政策理事会プレビュー～デビュー戦、3つの見どころ～
2019年12月3日	ドイツ政局の流動化について～メルケル退任まであと2年～
2019年12月2日	金融政策に環境配慮は必要か?～制御すべきは気候ではなく物価～
2019年11月29日	週末版
2019年11月26日	円安リスクの点検～「ツケ」が怖い2020年～
2019年11月25日	名目実効為替相場(NEER)で読む2019年のドル相場
2019年11月22日	週末版(ドラギ元総裁、最後のECB政策理事会議事要旨～「結束(unity)」と財政政策～)
2019年11月20日	「ドル化した世界」で進む「金融政策の一本化」 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年10月分)
2019年11月19日	ドイツは底打ちしたのか?～リセッション回避も残る不安～
2019年11月18日	「株価の虜」と「予防的緩和」について考える
2019年11月15日	週末版(ラガルド体制の「overhaul(刷新)」ミッションの行方～総裁会見と投票方式について～)
2019年11月14日	欧州の「弱さ」源泉～輸出拠点が裏目にたドイツ～
2019年11月13日	円高予想の誤算と「ドル化した世界」という悩み
2019年11月12日	動かない相場の背景にある「円の不人気」
2019年11月11日	「公的デジタル通貨 vs. リブラ」の様に
2019年11月8日	週末版
2019年11月1日	週末版
2019年10月30日	ラガルド新ECB総裁を巡る3つの論点
2019年10月29日	円安リスクの点検～欧州・中国の復調はあるか?～
2019年10月28日	ドラギ総裁最後のECB理事会～危機の「生き字引」～
2019年10月25日	週末版
2019年10月24日	またも史上最小値幅～体感「5円、以下という異例」～
2019年10月23日	「リブラ、阻止で一致するG20～サッカーバグ証言を前に～
2019年10月21日	思い出したい「10月31日」の経緯～次に起こることは～ 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年9月分)
2019年10月18日	週末版(2度目の離脱協定案合意～3つの論点を整理～)
2019年10月16日	FRBのTB購入を受けて～欲しかった「ずる賢さ」～
2019年10月11日	週末版(ECB政策理事会議事要旨を受けて～議論紛糾の読み方、議事要旨としては秀逸～)
2019年10月10日	円相場の需給環境について～縮小均衡～
2019年10月9日	FRBの資産購入再開と懐かしソロスチャート
2019年10月8日	揺らぐリブラ計画～初のメンバー脱退表明を受けて～
2019年10月7日	米9月雇用統計を受けて～「思ったより悪くない」の危うさ～
2019年10月4日	週末版(製造業から非製造業への波及は始まったのか～ISM景気指数の悪化を受けて～)
2019年10月3日	ユーロ圏の物価情勢の現状と展望～日本化の過渡期?～
2019年10月2日	ISM製造業景気指数の「底」は見えそうか?
2019年9月27日	週末版(三度起こった「ドイツの乱」～ラウテンシュレガーECB理事辞任の読み方～)
2019年9月26日	円安リスクの点検～財政政策というアップサイドリスク～
2019年9月25日	為替相場の現状を概観する～REERを通して見えること～ 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年8月分)
2019年9月24日	「羊頭狗肉」化するマイナス金利政策
2019年9月20日	週末版(日米金融政策決定会合を受けて～9月乗り切るも日銀の難局は続く～)
2019年9月17日	「原油高&円安」が重荷になる日本経済
2019年9月13日	週末版(ECB政策理事会レギュラー～出尽くし懸念強まるパッケージ緩和～)
2019年9月11日	均衡イメージが変わらない円の基礎的需給環境
2019年9月10日	日銀会合プレビュー～9月の一手と利下げの行方～
2019年9月6日	週末版(ECB政策理事会プレビュー～APP再開は困難だが、露払いはしたいところ～)
2019年9月5日	プレグジットを巡る論点整理～ボンド/ドルは1.20割れ定着か～
2019年9月4日	米企業心理とドル相場の関係～ISM悪化を受けて～
2019年9月3日	リブラを全否定したメルシウ講演～不安はどこに～
2019年9月2日	消えない米国のドル売り介入観測について～諸刃の剣～
2019年8月30日	週末版
2019年8月29日	ユーロ圏投資ファンド統計に見るポートフォリオバランス効果
2019年8月27日	円安リスクの点検～警戒すべきトランプ減税第二弾～
2019年8月26日	円高・ドル高という地合い～105円割れを受けて～
2019年8月23日	週末版(ECB政策理事会議事要旨を受けて～9月のパッケージ緩和が濃厚に?～)
2019年8月22日	FOMC議事要旨を受けて～「調整」の誘惑、日銀の経験～
2019年8月21日	ドイツのISバランスは遂に変わるのか?
2019年8月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年7月分)
2019年8月19日	YCC、捨てる日銀と捨てるECB
2019年8月16日	週末版(2019年上半期の対米証券投資について～下期以降の景色は大幅変わりそう～)
2019年8月15日	ドイツに引きずられるユーロ圏経済
2019年8月14日	中国の「次の一手」として米国債売却はあるのか?
2019年8月13日	ドル高止まりによる引き締め効果～利上げ17回分?～
2019年8月9日	週末版
2019年8月6日	遂に突破した「1ドル=7.0円」～対抗措置としての元安～
2019年8月5日	米7月雇用統計を受けて～趨勢的な鈍化は明らか～
2019年8月2日	週末版(何の意味もなかったパウエル議長の失言～トランプ関税とインフレ停滞も利下げの理由に～)
2019年8月1日	FOMCを終えて～「1歩譲れば100歩求める」～
2019年7月31日	日銀金融政策決定会合～流行りの「予防的緩和」～